

YOKOHAMA HEALTHCARE PROFESSIONALS & ADMINISTRATIVE STAFF

Job Information

横浜市医療技術職員・
行政職員採用案内



横浜市立市民病院
Yokohama Municipal Citizen's Hospital

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
Yokohama Brain and Spine Center

誰かを支える私になる

横浜市立病院は、市民の医療ニーズの変化を捉え、地域医療や政策的医療をリードしていくために設立された医療機関として、市民の皆さんの命と健康を支えています。

横浜市立病院医療憲章

私たちは、病院を利用される市民の皆様が、質の高い医療サービスを安心して安全に受けることができるよう、次の5項目を推進してまいります。

- 1 患者さんの声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた、医療サービスを提供してまいります。
- 2 患者さんの知る権利を尊重してまいります。
- 3 インフォームドコンセント（説明と、患者さんの理解・選択に基づく同意）を的確に行い、患者さんの自己決定権を尊重してまいります。
- 4 患者さんのプライバシーを尊重してまいります。
- 5 医療に関して、高い倫理観、十分な知識、確かな技術を持ち、さらなる研鑽に努めてまいります。

各病院の理念

市民病院

私たちは、安全で良質な医療を提供すると共に、「安心とつながりの拠点」として、市民の健康な生活に貢献します。

脳卒中・神経脊椎センター

安心・納得できる安全・誠実で、高度な専門医療をめざします。

横浜市立病院のチームの一員として、
「自信」「やりがい」「専門職としての誇り」を持って
働いてみませんか

高度急性期を中心とした先進的医療や政策的医療で市民の健康を支える総合病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

横浜市立市民病院

●病院概要（令和7年4月1日現在）

病 院 長 | 中澤 明尋

許可病床数 | 650 床（うち感染症病床 26 床）

診 療 科 | 34 科

入院患者数 | 平均約17,519 人 / 月（210,222 人 / 年）

手術件数 | 平均約 621 件 / 月（7,450 件 / 年）



市民病院は、急性期を中心とした総合的な病院であり、がん、救急、周産期、災害医療等、地域から必要とされる政策的医療及び高度急性期医療に積極的に取り組んでいます。また、県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、専門スタッフを配置しています。

令和2年5月には新病院が開院しました。更に高度で先進的な医療提供を通じて、地域医療全体の質向上に貢献していきます。

脳卒中・神経疾患・脊椎脊髄疾患の急性期医療とリハビリテーションを行う専門病院

Yokohama Brain and Spine Center

横浜市立脳卒中・神経脊髄センター



●病院概要（令和7年4月1日現在）

病 院 長 | 城倉 健

許可病床数 | 300 床

診 療 科 | 8 科

入院患者数 | 平均約7,666 人 / 月（91,989 人 / 年）

手術件数 | 平均約 108 件 / 月（1,286 件 / 年）

脳卒中・神経脊髄センターは、脳血管疾患に加え、中枢神経全般に対応する公立の専門病院として医療機能の充実を図っています。優れた医療を提供することはもとより、先進的な医療の実践、新たな診断・治療法の研究・開発にも積極的に取り組んでいます。また、脳卒中の救急医療、地域の保健・医療機関と連携するとともに、市民講演会の開催など、市民の健康増進にも積極的に取り組んでいます。

部門紹介

部門人数 | 46 名

薬剤部は約7割が20代～30代と若いスタッフが多く、約8割が女性という職場です。

薬剤部の基本方針は、①機械でできることは機械に任せる、②薬剤師免許が不要な業務は他職種へタスクシフトする、③薬剤師は本来業務に注力する、④業務は属人化させず、複数担当制にする、⑤超過勤務を抑制するとし、働く職員の幸福度が高い、心理的安全性の高い組織を目指しています。

病棟業務を中心に、カンファレンス、がんや感染等のチーム医療活動に積極的に参画しています。またジェネラリストから認定・専門薬剤師の取得推進のため学会参加費等は薬剤部で負担しています。1年目から学会等への参加を積極的に支援し、5年目までに日本病院薬剤師会の病院薬学認定薬剤師の資格取得を目指しています。

採用1年目は社会人としてのマナーから業務習得の進捗管理まで、年齢の近い先輩職員が1対1でサポートしています。あなたのやる気をそのまま生かせる職場です！



職員からのメッセージ

私は学生時代に当院での実習を経験し、就職を決めました。元々就職先を病院に絞っていた訳ではなかったのですが、やりがいを持って働く先輩方の姿が印象に残ったこと、部内の雰囲気がとても良かったことで当院で一緒に働きたいという希望を強く持ちました。

自身の興味がある分野に、積極的に取り組むことができる環境にも魅力を感じました。

入職後は希望していた抗がん剤治療に、調剤、混注、病棟業務等、様々な視点から携わることができ、幅広い診療科の抗がん剤治療について学びを深めています。

また、緩和ケアチームに所属し、医師、看護師をはじめ、多職種と協働して、日々試行錯誤しながらもチーム医療の一端を担っています。

トレーナー制度をはじめ、不安なことはいつでも相談できる環境が整っており、安心して働くことができます。資格取得に必要なサポートも充実していて、スキルアップに挑戦できる職場です。是非一緒に働きましょう！

部門紹介

部門人数 | 18 名

脳卒中・神経脊椎センターの薬剤部は24時間、365日、交代で救急外来や入院業務に対応しています。

中央業務（内服・注射調剤）は全員で行い、臨床業務（病棟業務）はチーム体制をとっています。中央と臨床業務を兼務しているため、業務シフト表を作成して見える化をはかり、職員間の業務量の偏りをできるだけなくすようにしています。薬剤師が参加しているチーム医療は、栄養サポートチーム、感染対策チーム、褥瘡対策チーム、認知症サポートチーム、術後疼痛対策チームなどがあり、薬の専門家として多職種と協働してチーム医療の推進に貢献しています。また、適切な薬物治療を提案できるよう、認定・専門薬剤師の資格取得もサポートするなど、人材育成にも力を入れています。薬科大学の早期病院見学や長期実務実習の受け入れ、近隣薬剤師会との共催勉強会も行っています。横浜市の病院として、市民の安心・安全な薬物治療と医療安全に貢献しています。



職員からのメッセージ

当院は専門病院ですが、基礎疾患を抱える患者さんが多く幅広い分野を学ぶことができます。また急性期から回復期までの病棟があるため、一つの症例と長くじっくり向き合うことができます。

カンファレンスの参加や病棟での相談応需、多職種と相談しながら退院後を見据えた薬剤調整を行うため、多職種と顔の見える関係が築きやすい職場です。

入職して1年間はトレーナー制度があるなどサポート体制が整っており、1年目の夏に夜勤業務、秋には病棟業務と早期から様々な業務に携わることができます。日々学びながら、ときに先輩に頼りつつ、より良い薬物治療に貢献するため励んでいます。

専門薬剤師などの資格取得や学会発表については自分の興味のある分野に挑戦できます。実際に資格取得に向け、3年目までにICU・SCU病棟担当、感染や救急、褥瘡チームの担当を始めることができました。

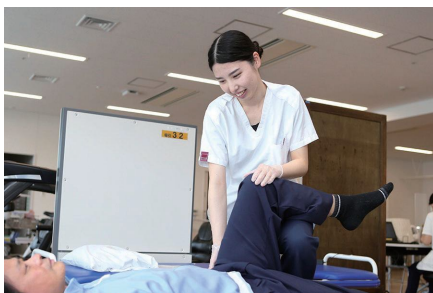
職場の雰囲気は明るく薬剤師として成長できる職場であると感じています。皆さんと共に働ける日を楽しみにしています。

部門紹介

部門人数 | 21 名

リハビリテーション部門は、令和2年に新病院へ移転し、約500㎡の広いスペースとなり、屋外テラスからは富士山を眺望できます。

対象は入院の脳卒中、運動器、呼吸器、循環器、がんなどの疾患ですが、心臓リハビリテーションでは外来を積極的に行っています。ICUやCCU・HCUでのリハビリテーションなど急性期病院ならではのリハビリテーションも特徴です。入職後はトレーナーが付き、治療技術、カルテ記載、書類作成などを手伝います。2年目からICUでのリハビリテーション、3年目から心臓リハビリテーションのジョブローテーションがあり、先輩の指導のもと、急性期集中治療の理学療法やリスク管理を学ぶことができます。部内での勉強会や学会参加など自己研鑽に励める体制もあります。資格に関しては専門・認定理学療法士や、3学会合同呼吸療法認定士、心臓リハビリテーション指導士、心不全療養指導士、集中治療理学療法士などを取得しています。



職員からのメッセージ

就職して1年が経ち、当院は新人が安心して成長できる環境が整っていると実感しています。ラダー制度があることで目標が明確になり、疾患・障害への介入経験や設備の使用、書類業務などを網羅したチェックリストを活用し、進捗を可視化しながら計画的にスキルアップすることができました。

臨床業務は見学から始まり、トレーナーと共に介入しながら段階的に進めるため、無理なく経験を積むことができます。困ったときには年齢の近いサポーターに相談ができ、安心して業務に取り組むことができました。

また、先輩方は経験豊富で専門性が高く、自分にとって知識が深まる機会が多いだけでなく、働き方の多様性がロールモデルとなり、キャリアを考える上での参考にもなります。また、有給休暇が取りやすい環境も魅力です。

新しい環境に不安を感じるかもしれませんが、温かく支えてくれる先輩もあり、頑張ったことを評価してもらうこともできます。充実したサポート体制もありますので、ぜひ一緒に働きましょう。

部門紹介

部門人数 | 36 名

脳卒中・神経脊椎センターの理学療法部門では、元気あふれる若手と経験豊富なベテランが融合して患者さんの診療に取り組んでいます。

対象疾患は、約6割が脳卒中、3割が脊椎脊髄・整形疾患、1割が神経難病・心疾患等の疾患です。令和3年からは、新たに心臓リハビリテーションが開始されています。急性期から回復期まで一貫したリハビリテーションを提供することが特徴で、早期からの機能改善と、活動性向上を意識した多彩なプログラムを実施しています。開設以来続くグループ練習やリハビリテーションスポーツは、患者さんから大人気の、歴史ある診療枠となっています。

また、補装具や車椅子をはじめ、歩行用ロボット、三次元動作解析装置、呼吸代謝測定機器など、様々な機器を診療に活用しており、ここから研究や学会発表等の学術活動にも多くつながっています。地域のリハビリテーション専門職との定期的な交流もあり、部門一丸となって地域貢献にも取り組んでいます。



職員からのメッセージ



脳卒中・神経脊椎センターに入職し、2年目を迎えました。入職後は、業務内容はもちろん臨床場面でも迷い、悩む事が多くありました。しかし、その度に経験豊富な先輩方が親身になって相談に乗ってくれました。また、トレーナー制度や勉強会等、教育体制も充実していることから、臨床で行き詰まった際の答えを見い出すヒントを得る場面も多くありました。

当院では、急性期から回復期まで幅広い病期を担当することで、一人ひとりの患者さんに集中してリハビリテーションを行っていくことができます。様々な疾患がある患者さんがいる中で臨床を進めていくため、常に良いリハビリテーションが行えているか、試行錯誤する毎日です。当院のリハビリテーション部には幅広い年代のセラピストが多数在籍しているため、周りの先輩方のサポートを受けながら毎日少しずつ成長しています。是非皆さんも当院と一緒に働きましょう！

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

部門人数 | 8名

急性期病院である当院では、疾病の発症直後・手術直後から作業療法を開始します。対象疾患も、脳血管疾患・整形疾患・神経筋疾患・がんなど多岐にわたり、これら対象者の心身の機能回復と、ADL・APDL拡大を図ります。がん患者さんは周術期、化学療法や放射線治療の時期に加え、緩和ケア病棟で終末期にも関わります。また、心疾患患者さんへの作業療法依頼も増えてきています。患者さんの入院期間は短く、転院する方が多い一方で、当院から自宅復帰する方も少なくありません。全ての患者さんにおいて開始時から転帰先に応じた生活を考え、多職種と協力して退院支援を進めることも頻繁に行います。

育成体制としては、院外の学会や研修会への派遣に加え、院内の研修会、勉強会も多く、作業療法士間で定期的に伝達講習なども行います。新採用職員は、トレーナー制度を活用し、2年間は先輩職員の指導のもとに診療に当たります。



職員からのメッセージ



市民病院は急性期の総合病院で、様々な疾患を対象にリハビリテーションを提供しています。最近では、心大血管障害に対するリハビリテーションに積極的に関わることも多くなりました。疾患に対する知識やリスク管理について、日々の経験や勉強、院内研修などを通して、理解を深めながら臨床に取り組んでいます。担当患者さんの人数が多い、入院期間が短く入れ替わりが早い、合併症が多く主疾患以外にも留意しながら介入する必要があるなど、急性期病院らしい忙しさはありますが、それらを日々経験することで着実に自分の力になっていると感じます。リハビリテーション室は見晴らしも良く開放的な環境です。また、困ったことがあっても先輩や他職種に聞きやすい職場です。急性期の作業療法に興味があれば、市民病院で是非一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

部門人数 | 31名

当院の作業療法部門には、若手から経験豊富なスタッフまで幅広い経験年数のスタッフが在籍し、脳血管疾患・脊椎疾患・神経難病の患者さんに対し、急性期から回復期までマンツーマンでリハビリを行っています。

広々とした訓練室には、プラットホームやテーブルのほか、一軒の家のようなADL室を完備。寝返りや坐位などの基本動作から応用動作まで、多彩な訓練が可能です。また、上肢ロボット（ReoGo-J）や低周波治療器を活用し、患者さんの回復をサポート。高次脳機能障害の方には、作業活動を通じて「できること」を確認しながら訓練を進めています。

私たちは、日々のコミュニケーションを大切にし、勉強会やミーティングを通じて学び合う環境を整えています。先輩が丁寧にサポートするので、安心して成長できる職場です。明るく開放的なリハビリ室で、私たちと一緒に患者さんの未来を支えませんか？



職員からのメッセージ



脳卒中・神経脊椎センターには、広々とした訓練室に加え、キッチンや和室、浴室、玄関などを備えたADL室があり、患者さんの生活を見据えたリハビリを実践できます。

私は入職当初、目標設定やプログラムに悩むことも多く不安がありましたが、新人トレーナー制度があり、先輩方に気軽に相談できたことで、安心して取り組むことができました。月1回の作業療法部門の院内勉強会では、臨床に役立つ知識や技術を学ぶ機会もあり、自分の成長を実感できます。困ったときには、経験豊富なベテランから歳の近い先輩まで、誰にでも相談しやすい雰囲気があり、日々の業務にも前向きに取り組んでいます。

学びと支えのあるこの職場で、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

部門紹介

部門人数 | 4名

言語聴覚部門は少数部門ですが勤続10年以上のSTがそろっています。当部門への依頼は脳外科や脳神経内科だけでなく耳鼻咽喉科、呼吸器内科や消化器外科など多岐にわたります。そのためSTが対象とする疾患は脳血管障害、神経筋疾患やがんなど様々で、これらの疾患に伴う嚥下障害、失語症や運動障害性構音障害などに対する評価・訓練を行っています。また、音声障害や機能性構音障害の外来訓練もしています。嚥下障害の患者さんは特に多く、摂食嚥下チーム（リハビリテーション科医師・摂食嚥下障害看護認定看護師・管理栄養士）で回診やカンファレンスを行い、日々の診療は病棟看護師・管理栄養士と連携して行っています。忙しい職場ですが、学会・研修会への参加、院内研修（吸引など）や症例検討会を通し、みんなで学びあって技術の向上に努めています。

リハ室からは富士山が見えますので、良かったら一度見学にいらして下さい。



職員からのメッセージ

市民病院の言語聴覚療法は摂食嚥下リハビリテーションの依頼が多いことが特徴的です。依頼があるとベッドサイドで嚥下スクリーニング検査や食事評価を行い、早期かつ安全に経口摂取へ移行できるよう、全身状態に留意しながら介入します。昼食の時間帯は食事評価で病棟をまわるため最も忙しいですが、食事を前にした患者さんの喜ぶ顔が見られる充実した時間でもあります。機能だけではなく、体調や気持ちでも変化する患者さんの「食べる」に真摯に向き合い、日々、リハビリテーションを行っています。

嚥下回診や嚥下カンファレンスでは多職種で情報共有し、摂食・嚥下チームで関わっているため、相談しやすい環境です。はじめは先輩と一緒に介入するので1人で悩むことはありません。多数の診療科から依頼があるため幅広い知識と経験を積みまし、症例検討会や研修会、学会への派遣もあり、学ぶ機会が多くあります。是非一緒に働きましょう。

部門紹介

部門人数 | 10名

当院の言語聴覚療法部門では、「話すこと、食べること」を大切にしています。数年から20年以上と幅広い経験年数からなるSTが在籍し、失語症・構音障害・摂食嚥下障害等に対し評価・練習を行っています。診療体制は、急性期・回復期・外来のいずれの病期も担当します。対象疾患は、言語聴覚療法の対象として全国的には摂食嚥下障害の比率が高まっていますが、当院では失語症が半数以上を占め、次いで嚥下障害が40%で、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査に同行する機会も多いです。また高次脳機能障害や認知症に対しても、心理療士と日々協力して診療しており、STにとってバランスよく各領域の経験を積み重ねられる職場です。さらに、当院の特徴である「急性期から回復期まで質の高い専門医療を一貫して提供する」に則り、急性期から回復期、外来まで、可能な限り1人のSTが継続して担当し、障害に対する理解を深めています。



職員からのメッセージ



誰かと言葉を交わすこと、食事を楽しむことはその人「らしさ」があるように思います。そんな一人ひとりの「らしさ」を大切に、その人らしく生活する手伝いができればと思い、私はこの仕事を目指しました。そして当院が掲げる「生活に根ざしたリハビリテーション」に魅力を感じて入職し、もうすぐ1年になります。

当院では、1人の患者さんの急性期から回復期、外来では生活期までを担当する機会があります。今、目の前にいる患者さん、数か月後の患者さん、さらに退院後の患者さんのことを考えながらリハビリテーションを行うことは決して簡単ではありませんが、その分やりがいを感じる場面が沢山ありました。このような経験ができるのは当院の特徴の一つではないかと思っています。また、経験豊富な先輩も多くいます。臨床スキルから患者さんとの関わり方まで、困ったときは一緒に考えてくれます。

こんな当院で私たちと一緒に仕事をしてみませんか。

部門紹介

部門人数 | 2名

市民病院の眼科は、白内障や緑内障の手術の他、令和2年5月に新病院に移転してからは、硝子体の手術にも力を入れ始めています。

糖尿病や高血圧など生活習慣病による合併症や、脳神経内科などの脳疾患による視野欠損や複視、また形成外科の眼外傷など、他科からの依頼を受けて、眼科としての診察を行っています。視能訓練士は医師の指示を受けて、様々な検査を行っています。医師はその検査結果から診断をするため、正確な検査をするよう心がけています。

令和5年1月から広角カメラが導入されたことにより、糖尿病網膜症などの検査が行えるようになったため、患者さんの負担が少なくなりました。



職員からのメッセージ

視能訓練士は医師の指示を受けて、様々な検査をしています。病院の中でも認知度が少ない職種ですが、ご存知でしょうか？

視力や視野、眼底撮影や眼球運動等々の検査をしていて、患者さんの自覚に頼る検査が多いので大変ですが、先輩にわからないことを聞いたり、技術のアドバイスをいただいて、試行錯誤していく中で経験を積み、だんだんと自信を持って検査できるようになってきました。

当院は多くの科を有する総合的な病院であり、他科からの併診の患者さんも多いので、眼の合併症を起こす全身の様々な疾患の方の検査をすることができます。そのために眼の合併症について医師の指導を受けたり、書籍を読んで勉強したりしています。職場の雰囲気も和気あいあいとしていて、職種関係なく仲が良いです。皆さんも是非一緒に働いてみませんか。

部門紹介

部門人数(市民病院) | 2名

部門人数(脳卒中・神経脊椎センター) | 2名

横浜市民脳卒中・神経脊椎センター

当院の心理療法は、亜急性期から回復期の脳血管疾患を主な対象疾患として、公認心理師が言語を除く高次脳機能障害や認知機能障害、気持ちの状態に働きかけています。プライバシーが保護された環境で、様々な心理検査や面接、行動観察を通して脳の損傷によって生じた障害を見立てます。認知訓練として、課題実施による障害の軽減や生活場面での対処法の習得を図りながら、障害への気づきを促します。同一疾患が多い当院の特徴を活かし、同じような障害の方々によるグループ訓練も行なう場合があります。心理カウンセリングでは、脳卒中後の抑うつや感情面の動揺、意欲低下などに対して、対話によるカウンセリングのほか、具体的な行動目標を設定して気持ちより行動に焦点をあてる方法や、描画や箱庭で内面を表現する方法などを用いて、混沌とした感情を整理し今の自分と向き合う援助をしています。また、もの忘れ外来ともの忘れドックの心理検査を担当しています。



職員からのメッセージ

私は、横浜市民脳卒中・神経脊椎センターの開院準備室から今日まで、心理療法士として勤務してきました。公認心理師・臨床心理士・臨床神経心理士を入職後に取得しました。

主に、脳の病気・怪我等で入院された患者さんのメンタルヘルスの維持・改善、そして高次脳機能障害のリハビリテーション(認知リハ)に携わっています。高齢の方から復学・復職を希望される方まで幅広い年齢層の患者さんとお会いしています。

多くの患者さんは当院に数か月間入院し、さらには、退院後外来でリハビリに取り組みます。その過程で患者さんは悲しみ・葛藤しつつもしなやかに乗り越え、“ご自分らしさ”を再確認していかれます。心理療法士は、他の医療職とともにその“伴走”者の一人となる大変やりがいのある仕事です。こんな経験ができる当院で是非一緒に働きましょう。

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

部門人数 | 9名

市民病院の栄養部は、全ての診療科における治療効果を底上げするための、重要な役割を担っています。

病院栄養士は主に臨床的な栄養管理や栄養指導を担当しており、管理栄養士だけではなく、医師、看護師、薬剤師など、たくさんの医療職種と協力しながら、患者さんの生きる力を支えています。

入院患者さんへの食事提供業務は専門業者に委託しています。「安全でおいしい食事」「治療効果があがる食事」「食べる人に楽しみと安らぎを与える食事」を通し、「個々の状態に合わせた栄養管理」ができるよう協働しています。

以前と同じような食事が摂れなくなった患者さんの栄養管理にも、形態を変えたり栄養補助食品を組み合わせたりして積極的に関わっています。また、患者さんがご自宅へ戻られても食事を無理なく続けられるよう栄養相談を行い支援しています。



職員からのメッセージ

管理栄養士の業務は、大きく分けて栄養指導と栄養管理があります。

入職後最初の業務は栄養指導でした。

当院は急性期の総合病院で、小児期から高齢期まで幅広い年齢層の患者さんがおり、指導内容は多岐に渡ります。個々に異なる病態や嗜好、生活背景に沿った提案に悩むこともあります。傾聴を大切に、「できそう」と思っただけの指導を心がけています。

入院患者さんの栄養管理では、多職種カンファレンスへの参加、NSTや摂食嚥下チームの一員として回診に参加し、栄養摂取方法を提案していきます。また、個別調整が必要な患者さんの献立調整も行います。

先輩方のサポートのもと、様々な業務に挑戦でき、やりがいを感じながら着実にスキルアップできる環境だと思います。是非一緒に、患者さんを栄養からサポートしていきましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

部門人数 | 4名

当院の栄養部は、献立作成から、調理、配膳、下膳は給食提供業者に委託されており、職員は給食管理及び指導業務を行っています。

給食内容の特徴である脳卒中後の嚥下障害に対応する嚥下食は、細やかに調整できるように工夫しています。

栄養管理業務では、入院時のアセスメントによって栄養情報を得て、問題がある場合は医師や看護師とともに食事や栄養内容の相談・調整を行います。食事時の病棟訪問も盛んに行われ、患者さんに対する食事の指導や助言を行うこともしばしばあります。

またNST（栄養サポートチーム）をはじめとしたチーム活動への参加も積極的に行っており、褥瘡チーム、感染対策チームなどの一員としても活動しています。NSTでは、食事の調整のみならず、栄養剤投与患者のトラブルを多職種でカンファレンスし、ラウンドを行います。



職員からのメッセージ

当院は、脳卒中の後遺症による機能障害や、脊椎疾患の術後の疼痛で食事が摂れない患者さんなど、栄養管理を必要とする患者さんが多数を占めています。

直接献立を立てたり、食材を選んだりすることはありませんが、高血圧や糖尿病、腎臓病をはじめ、嚥下機能障害も多く、献立内容の管理、指導を積極的に行っています。

栄養指導は、脳卒中の再発予防のための、高血圧、糖尿病をはじめ、腎機能低下の患者さんも多くみられるほか、低栄養防止や、嚥下機能障害に対応した食形態の説明など、様々です。機能障害の程度も一様ではなく、高齢者家庭での食生活状況の変化など、患者さんの生活に応じた目標設定の難しさを感じますが、「これならできそう、話を聞いて良かった。」そう言ってもらえるような指導を心がけています。

近年、栄養管理は、病院の施設基準に明確に位置づけられ、管理栄養士の業務も今まで以上に責任が重くなっていますが、大きなやりがいを持って業務に取り組んでいます。

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

部門人数 | 22 名

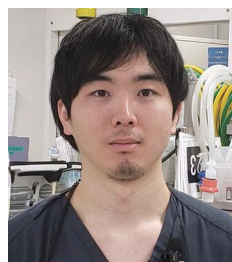
市民病院はがん、救急、感染症を3本柱に地域住民の皆様に必要な政策的医療を担っています。臨床工学技士は血液浄化センター、集中治療室、病棟、血管撮影室、手術室、専門外来等において重症患者等の医療機器使用患者の検査、治療に携わっています。臨床工学技士は患者さんにより近い場所で直接的に医療を提供することを心掛けています。また、夜間、休日における救急対応、一貫した重症患者管理を行うため、二交代制勤務を行っています。

さらに、臨床工学部は医療機器安全管理、呼吸療法サポートチームの運用にも主体的に関与しており、市民病院の医療水準の向上に貢献しています。さらには臨床工学技士の日本 DMAT 隊員も在籍しており、災害対策においても重要な役割を担っています。

令和2年5月には新病院が開院しました。従来からの救急医療や高度急性期医療への関与に加え、新型コロナウイルス感染症患者への対応やロボット支援手術への対応など、臨床工学部の役割は重要性を増してきます。これらの期待に応え、市民の皆様から応援していただける市民病院、臨床工学部となるべく努力を続けていきます。



職員からのメッセージ



私は平成 30 年に入職しました。横浜では人事考課制度を導入しており、目標を設定して上司と共有しながら日々の業務に取り組みます。私の1年目の目標は夜勤業務を担当することでした。当院の臨床工学技士は1人体制で夜勤業務を行っているため、夜勤業務を担当するには様々な緊急業務に対応できなくてはなりません。難しい目標でしたが、上司や先輩の支えもあり、達成することができました。2、3年目では血液浄化、呼吸療法、心臓カテーテル、手術室、医療機器管理業務をローテーションで担当し、4年目に専門性の高いカテーテルアブレーション、6年目からは体外循環にも挑戦しています。

また、部内ではグループ活動として、安全管理や情報管理、災害対策といった臨床業務以外で必要不可欠な活動を行っています。私は1年目から災害対策グループに所属しており、4年目からはグループリーダーとして災害訓練の企画や災害対策物品の管理、院外の学会やセミナーへの参加などを行っています。入職当時は災害対策についてはあまり意識していませんでしたが、グループ活動を通じて災害対策の必要性を実感し将来は DMAT 隊員になることが目標です。臨床工学技士としてのスキルを幅広い分野で生かすことができる職場だと思います。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

部門人数 | 2 名

脳卒中・神経脊椎センターでは、急性期機能と回復機能を有し、その中で臨床工学技士は手術室、集中治療室、病棟、外来等で業務を行っています。

主な業務は、医療機器管理業務、手術室業務、呼吸治療業務、在宅医療機器導入支援業務であり、患者さんに寄り添いながら多職種と連携して業務を行っています。

さらに臨床工学技士は医師、看護師などとともに呼吸療法サポートチームや救急サポートチームの一員としてチーム医療活動に積極的に参加しています。

臨床工学部は院内における医療機器管理の中心的役割を担い、定期点検の実施や安全管理研修、安全管理情報の収集を行っています。

専門病院として、職員のキャリア形成を考え、仕事にやりがいを持って働ける環境となっています。



職員からのメッセージ



私は、これまで市民病院と脳卒中・神経脊椎センターと両施設で業務に携わってきました。市民病院と比べると臨床業務の件数は少ないものの、限られた人数の中で呼吸療法、血液浄化療法、手術室でのナビゲーション等の医療機器操作、CPAP の導入などさまざまな業務を担ってきました。医療機器管理業務は、機器の購入から廃棄までの一連のプロセスを担当しています。新規の医療機器の導入の際には、管理システムへの登録を行い、適切な運用ができるよう研修を実施しています。医療機器は、患者さんの命を支える重要なものです。そのため、安全かつ円滑に使用できるよう、日々の点検・保守に努めています。臨床工学技士としての役割は多くのものがあります。少ない人数だからこそ、多職種から期待され、相談されることが多く、そのたびにやりがいを感じています。患者さんに信頼される臨床工学技士を目指していきましょう。

横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital

部門紹介

部門人数 | 41 名

ます。

業務以外では、「検診マンモグラフィ撮影認定技師」「医学物理士」「X線 CT 認定技師」「医療情報技師」などの認定資格を取得した技師が多数おり、部内の人材育成や対外的な講師役など、幅広く活躍しています。また第一種感染症指定医療機関に勤める技師として、日本診療放射線技師会誌（令和 2 年）に COVID-19 の感染予防策を特集として投稿するなど、学術的な活動も活発に行っています。

令和 4 年には最新放射線治療装置「HALCYON」導入、令和 5 年にはハイブリッド手術室の運用開始、令和 7 年には 3 台目の MRI 装置「MR5300」を導入し、高品質で安全な医療を迅速に提供することが可能となりました。新しい装置とやりがいのある職場で、私たちと一緒にがんばりましょう！



職員からのメッセージ



私は平成 31 年に入職しました。私たちは、院内全体の画像検査を担う専門部署として、日々良質な医療画像の提供に努めています。新人として入職してからは一般撮影、CT、MRI、救急撮影のモダリティを経験し、まずは夜勤業務に従事することを目標としてきました。私自身も入職当時は不安だらけで自立して働いていけるか心配でしたが、当部では、経験豊富な先輩技師のもとで学びながら各々の進捗状況に合わせた研修を行える体制が整っており、そのような手厚いサポートのおかげもあって今では様々な業務に対応できるようになりました。現在私は新病院移転に伴い導入された新装置を用いて学術研究に取り組んでいます。当院は研究や学会発表、資格認定に必要なサポートも充実しているため、積極的にスキルアップに挑戦できる職場です。そして何よりも画像診断部は雰囲気がとても良い職場です。楽しく仕事をして、技術知識の向上をしたいという方、大歓迎です！

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center

部門紹介

部門人数 | 17 名

脳卒中・神経脊椎センターの画像診断部は、一般撮影、骨密度測定、透視撮影、血管撮影、CT、MRI、核医学検査等を行っています。整形外科領域では、低線量かつ立位荷重位で全脊椎、膝関節等の形体や配列の評価ができる X 線撮影装置「sterEOS イメージングシステム」を県内で唯一導入しています。このシステムにより、立位 2 方向同時撮影及び 3D 解析が可能となり、高度な治療計画や診断に用いられています。

また当院は、24 時間 365 日、脳卒中診療が行える体制を整えています。当部門でも昼夜を問わず、MRI 検査や脳血管内治療等に対応できる体制を整え、最適な脳血管内治療を迅速に提供できるようにしています。

急速に進歩し続ける医療の中で、専門病院として最適な医療を提供できるよう最先端技術の習得に努めています。一人ひとりのキャリア形成を重視し、個別の教育プログラムを用いて研修を行うことで、個々にあったキャリアアップをサポートしています。



職員からのメッセージ



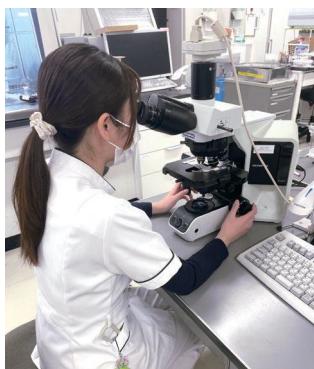
私は令和 6 年度に入職しました。診断に適したよりよい画像提供を目指すとともに、負担が少なく安全な検査を実施できるよう心がけています。入職当初は不安もありましたが、充実したサポート体制のおかげで積極的に業務に携わることができています。入職して半年間は夜勤業務に従事するための研修があり、新人向けの研修計画が各モダリティで細かく設定されています。研修中は教育担当の先輩と面談を定期的に行い、目標到達度の確認だけでなく精神面も寄り添ってくれる優しい先輩がたくさんいます。安心して研修を進めることができたおかげで、自身の成長を実感でき、自信をもって仕事に取り組むことができています。更に勉強会への参加や学術研究に励むなど自己研鑽に努める技師が多く、知識・経験とともに豊富な先輩技師と働くことができる環境は、自身のモチベーションとなっています。部内のみならず、院内全体の勉強会も多く開催され、スキルアップに必要な環境が充実している職場です。皆さんと一緒に働くことを心から楽しみにしています。

部門紹介

部門人数 | 53 名

24 時間 365 日体制で患者さんを受け入れる高度急性期病院、かつ、神奈川県で唯一の第一種感染症指定医療機関である市民病院の検査・輸血部は、中央検査室（生化学、血液、一般、輸血）、細菌検査室、病理検査室、生理機能検査室、外来採血室から構成されています。

診療科の多様なニーズに応えられるよう新規検査の導入や、迅速かつ柔軟な対応を心がけています。各部門が協力して、新型コロナウイルスの PCR 検査を 100% 院内化し、迅速に結果を出すことで救急医療や病床管理等に貢献しています。院内のチーム医療、がんゲノム医療、ドック事業にも積極的に参加しています。医療の世界は日進月歩であるため、学会参加や発表、資格取得を推奨し、将来の臨床検査業界を担う人材を育成しています。また、臨床検査室に特化した国際規格である「ISO15189」の認定を維持することで、より高い技術水準と検査精度を兼ね備えた検査室運営を目指しています。



職員からのメッセージ

私は令和 3 年に入職しました。入職してから 3 年ほど中央検査室（生化学・血液・一般・輸血）に所属し、一般検査を担当していました。

昨年 4 月から、病理検査室に勤務し組織診と細胞診、病理解剖を行っています。現在はその中でも大学時代に取得した細胞検査士の資格を活かして細胞診の業務に取り組んでいます。自分の診断が患者さんの治療に直接影響するので悩むことも多いですが、その度に先輩技師が丁寧に教えてくださるので日々成長しながら働いています。当院の検査・輸血部内では定期的なローテーションがあり、複数分野の技術を習得している職員も多くいます。学会や勉強会への参加には補助もあるため、認定資格の更新や取得が目指しやすい環境であると思います。また、産休・育休取得経験者も多く、復帰した先輩方が第一線で働いている点も魅力のひとつです。幅広い年代の職員がいることで、困ったことがあればすぐに相談できる和やかな雰囲気職場です。

部門紹介

部門人数 | 10 名

脳卒中・神経脊椎センター検査部は、生理機能検査部門と検体検査部門（血液検査、生化学・免疫検査、一般検査、病理検査、細菌検査、輸血検査）で構成されています。

検体検査のうち、血液検査、生化学・免疫検査、一般検査はランチ形式で外部企業に委託運営しており、当検査室の検体検査部門では細菌検査、病理検査、輸血検査を自主運営しています。生理機能検査、病理検査では臨床研究分野の専門性の高い検査も行っています。脳卒中・神経脊椎センターは脳血管疾患や神経疾患、脊椎疾患といった専門分野を取り扱うことが特徴です。そのため、脳波や神経伝導検査をはじめ、手術中の電気生理モニタリングなどの神経生理検査や、脳卒中の原因検索のための検査（超音波検査、血圧脈波検査など）の依頼が多く入ります。

当院は比較的小規模の病院であるため、一人ひとりが業務習得のために、先輩職員と目標を定め、定期的に進捗状況を確認しながら進めており、わからないことや不安な点はすぐに相談でき、解消できる環境が整っています。公立の特定領域の専門病院として、高い医療レベルに追いつくよう、検査の知識、技術を常にアップデートするよう心がけています。



職員からのメッセージ

私は学生時に横浜市民病院で臨地実習を行い、市の職員として働きたいと思っていました。念願かない、令和 5 年に入職することができました。

現在は脳卒中・神経脊椎センターの生理機能検査部門で採血業務、自律神経機能検査、心電図、脳波、超音波検査などを行っています。入職してすぐの頃は採血や心電図、簡易肺機能検査等を中心に担当していました。生理機能検査部門では一人ひとりが全ての生理機能検査業務を取得することを目指しているため、多くの種類の検査に携わることができます。先輩職員と目標を決め進捗状況を確認しながら進めていくため、不安な点、疑問点はすぐに解消でき、自身のペースで学べる環境が整っています。

また、検査の合間には空いているエコー機などの検査機器を使用して、自主練習を行っています。

先輩方は業務に関することだけでなく、何でも話せる優しい方ばかりなので安心して働くことのできる恵まれた環境だと感じています。

部門紹介

部門人数 | 9名

患者総合サポートセンターは、当院の理念「安心とつながりの拠点」の実現に向けて「入院前相談」「病床管理」「入退院支援・相談調整」「地域連携」の機能を有し、当院における PFM（※）推進の中心的な組織です。副病院長であるセンター長以下、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務の多職種が在籍しています。

その中で医療ソーシャルワーカーは「入退院支援・相談調整担当」として、院内外が多職種と協力しながら患者家族が抱える社会的、心理的、経済的な課題解決に向けた支援を行っています。

新採用職員には先輩職員がトレーナーとして1年間指導にあたり、専門職団体主催の研修参加も後押ししながら部門全体で積極的に育成しています。

※ PFM (Patient Flow Management : 患者さんが安心して医療を受けられるよう、入院前から一人ひとりの身体的、社会的、精神的背景を把握して課題解決に早期に着手し、入院中はもちろん退院後も含めて多職種が協働して支援を行うシステム)



職員からのメッセージ

患者総合サポートセンターには様々な機能が集まっていますが、その中で私は総合相談支援、入退院支援を担当しています。病気やけがによって様々な困りごとが生じたときに社会福祉の立場から

支援を行います。

相談室にふらっと来られる方や、主治医、病棟等の院内、地域関係機関の院外から相談が舞い込んできます。相談内容は多岐にわたり、様々な方と協力しながら係内のみなで力を合わせて支援を行っています。困った時には係のみんなが頼りになります。

「安心とつながりの拠点」の病院職員として、市民や院内外の方から信頼を得られるワーカーになれるよう日々奮闘しています。

幅広い年齢層の方、様々な相談内容の支援に関わることができ、たくさんの経験を積むことができます。

クライアントに寄り添った支援ができるソーシャルワーカーを目指して一緒に歩んでいきましょう。みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています。

部門紹介

部門人数 | 7名

当院の地域連携総合相談室は、医療ソーシャルワーカー・看護師・事務職員で構成されており、当院の理念「安心・納得できる安全・誠実で、高度な専門医療をめざします」のもと、入退院支援・入院前相談・地域連携業務を担っています。その中で、医療ソーシャルワーカーは「入退院支援」業務として、院内外が多職種と連携し、患者さん・家族が抱える心理・社会・経済的な課題、入院中や退院後も続く療養生活の不安を少しでも軽減できるよう支援しています。

当院の医療ソーシャルワーカーは、若手からベテランまで幅広い年代・キャリアの職員、また医療局病院経営本部採用職員と横浜市社会福祉職採用職員が混合して構成されており、それぞれの強みを生かして一緒に働いています。新採用職員の人材育成も、OJTや計画的な各種研修参加などを通じ、部門全体で積極的に取り組んでいます。



職員からのメッセージ

公立の専門病院である当院には、脳卒中や神経難病、脊椎疾患、身元が分からない方など、様々な病態や社会背景の患者さんが入院・通院されています。その中で私たちは院内唯一の社会福祉専門職として、多くの専門職や地域と連携して支援を行っています。

当院には機能の異なる病棟があり、一つの病院で様々な病期における支援や、急性期から回復期まで一貫したソーシャルワークを学ぶことができ、キャリアアップに繋がっていると感じます。また、入院中の家屋調査（患者さんの生活環境の確認）など地域に出る機会もあり、退院後の地域生活をイメージして支援できることも貴重な経験になっています。

部門内には様々なキャリアの職員がおり、常に顔が見える距離感で、お互いに相談しやすい環境です。経験を重ねても難しさを感じる日々ですが、力を合わせて患者さん・家族に寄り添った支援を目指しています。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！

部門紹介

部門人数(市民病院) | 13名

部門人数(脳卒中・神経脊椎センター) | 7名

横浜市立病院「病院総合事務」の職員は、医療局病院経営本部において、病院運営に係る事務（診療報酬請求に伴う分析業務、精度管理業務、委託業者の管理業務、医業収入確保に伴う企画・立案・調整業務、施設基準届出関連業務、院内がん登録業務、院内システム管理、地域連携業務等）に従事します。

少子高齢化や医療ニーズの多様化、医師の働き方改革等、医療を取り巻く環境は一層厳しくなる中で、「病院総合事務」にはその変化に対応し、柔軟かつ長期的に持続可能な組織運営をしていくスキルが求められます。長期的に経験することで、病院企業会計・病院経営に関する知識、診療報酬・診療情報に関する専門的な知識、病院労務・衛生管理に関する知識、地域連携業務を行う総合的な知識・調整力を習得していくことが可能です。

幅広く事務部門を経験することで病院事務全般に精通し、医療者からの信頼を得ながら、多様な職種で構成される病院をつなぐ存在として、広い視野で改革を提案・実行していくことを目指します。



横浜市立市民病院

Yokohama Municipal Citizen's Hospital



職員からのメッセージ

市民病院が多くの新型コロナウイルス陽性患者を受入れ地域医療に貢献していることを知り、その一員として働きたいと感じたため、入職を希望しました。

私が当初配属となった課では、電子カルテを中心とした院内システムの管理が主な業務であり、医療職を中心とした他部署職員から多くの問合せがあります。入職当初はその対応に戸惑いましたが、先輩方の丁寧な指導により理解を深めることができました。問合せに適切に対応でき、依頼者から「ありがとう」と言ってもらえることが何よりのやりがいです。

教育面では育成計画が用意されていて、働く上での態度・姿勢、必要な知識・能力をトレーナーに評価してもらいます。トレーナーからのアドバイスを真摯に受け止めることで、偽りなく自分を評価でき、成長に繋がっていると感じています。

また、クリニカルパス大会や英会話教室などの学習の場も用意されていて、多職種で交流できることも大きな魅力です。

高齢化が進む中、チーム医療のコーディネーター役として病院総合事務の役割は、ますます高まっています。地域医療のリーディングホスピタルである市民病院で、是非一緒に働きましょう。

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

Yokohama Brain and Spine Center



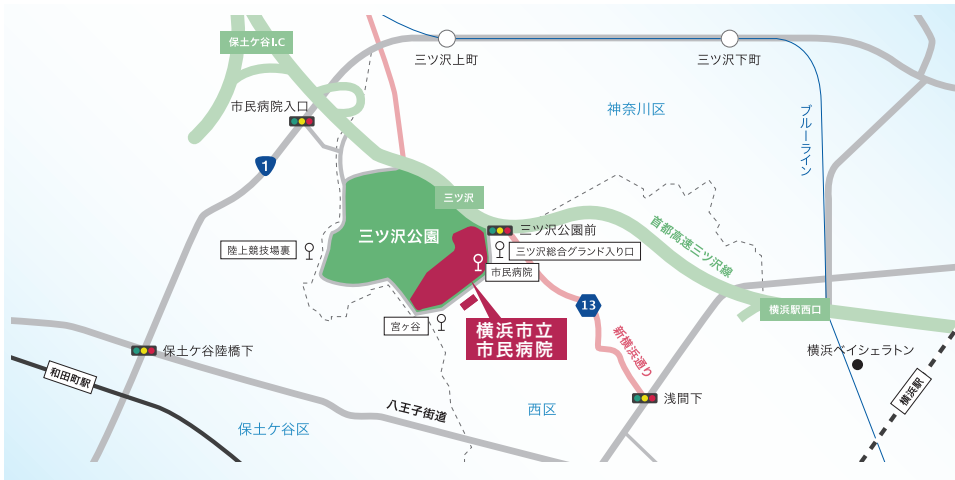
職員からのメッセージ

私は、他医療機関で病院事務職として勤務経験があり、より専門的、かつ高度な医療を提供している現場で学び、成長したいという思いから転職をしました。

地域連携総合相談室に係る業務は、窓口対応、地域の医療機関・救急隊への訪問活動、講演会運営、院内調整など多岐にわたります。患者さんやご家族が安心して医療を受けられるように、地域の方々と医療をつなぐ大切な役割を担っています。

「誰かの役に立ちたい」「医療を支える仕事がしたい」——そんな思いを持つ方に、ぜひ仲間になってほしいです。患者さん一人ひとりの人生に寄り添い、多職種と連携しながら支援するやりがいのある仕事です。経験がなくても大丈夫です。先輩がしっかりサポートをします。私たちと一緒に、地域医療を支える仕事をしませんか？

横浜市立市民病院



〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号
TEL.045-316-4580(代) / FAX.045-316-6580
<https://yokohama-shiminhosp.jp/>

横浜市立市民病院

検索

JR「横浜駅」西口から市営バス

- 87系統／34系統「市民病院」下車
(平日の日中)

JR「東神奈川駅」から市営バス

- 88系統「市民病院」下車
(東神奈川駅西口～東横反町駅前～
三ツ沢上町駅前～市民病院)

保土ケ谷区内や相鉄線沿線から市営バス

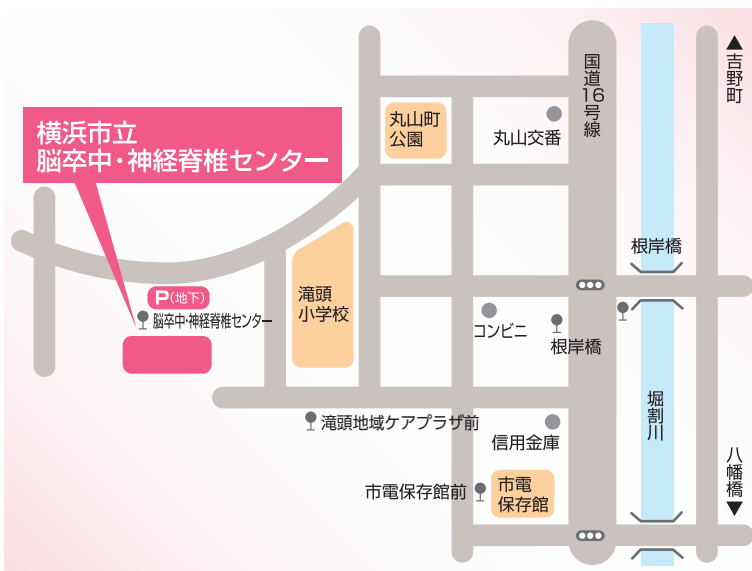
- 208系統「市民病院」下車
(横浜駅西口～和田町～市民病院)

※バス停「三ツ沢総合グランド入口」下車 徒歩1分
・横浜駅西口から三ツ沢総合グランド経由のバスに乗車

お車で越しの方

- 新横浜通り 三ツ沢公園前交差点そば
(第三京浜道路及び首都高速神奈川2号
三ツ沢線「三ツ沢」出口を下りてすぐ)

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター



横浜市立
脳卒中・神経脊椎センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭一丁目2番1号
TEL.045-753-2500 / FAX.045-753-2859
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/byoin/ybsc/>

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

検索

JR「根岸駅」から市営バス

- 135系統 脳卒中・神経脊椎センター経由 根岸駅前行
「脳卒中・神経脊椎センター」下車すぐ
- 78系統 磯子駅前行「滝頭地域ケアプラザ前」下車 徒歩5分
- 21系統 市電保存館前行「市電保存館前」下車 徒歩7分

京浜急行「黄金町駅」から市営バス

- 68系統／102系統 滝頭行「根岸橋」下車 徒歩8分

市営地下鉄「弘明寺駅」から市営バス

- 9系統 滝頭・磯子駅前行「滝頭地域ケアプラザ前」徒歩5分

市営地下鉄「吉野町駅」から市営バス

- 113系統 磯子車庫前行／156系統 滝頭行「根岸橋」下車
徒歩8分

※113系統と156系統とはバス停が違います。113系統の方がバスの本数が多いです。

京浜急行「南太田駅」、市営地下鉄「吉野町駅」から シャトルバス

- 脳卒中・神経脊椎センター行の無料シャトルバス

※令和7年4月1日現在の情報を元に作成しています。
※各部門の人数は令和7年4月1日現在の職員数です。



採用に関する
お問い合わせ

横浜市医療局病院経営本部人事課

T E L: 045-671-4822 (平日8:45~17:00)

MAIL: by-comesaiyo@city.yokohama.lg.jp

横浜市医療技術職員・行政職員 採用

検索

